

精華町教育委員会会議 議事録

令和5年（第8回）

- 1 開 会 令和5年8月31日(木) 午後1時30分
閉 会 令和5年8月31日(木) 午後3時55分
(途中10分間の休憩)
- 2 場 所 精華町役場 3階 301会議室
- 3 出席委員 川村教育長 松下教育長職務代理者 新司委員
井上委員 高岡委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席事務局職員
浦本教育部長 有城総括指導主事
俵谷学校教育課長
糸山学校教育課担当課長(施設担当)
川畑学校教育課担当課長(学校給食担当)
田原生涯学習課長 平井学校教育課主幹
- 6 傍聴者 0名

7 議事の概要

(1) 開会及び冒頭あいさつ

教育長から第8回教育委員会会議の開会を宣言。

(2) 前回議事録について

教育部長から令和5年第7回教育委員会会議の議事録について説明。

【採 決】

- ・全員承認

(3) 教育長報告事項

7月24日に山城教科用図書採択地区協議会が開催された。八幡市を会場

に行われ、本町からは私と松下委員の2名が参加した。

7月26日、町内の小中学校教員合同研修会があり、認知、非認知能力を一体的に育む教育の展開、指導の在り方について、京都府教育委員会から指導主事を招いて講演していただいた。

7月27日、子どもの読書環境づくり推進協議会として橋本京子教授の研究報告の最終回があった。

7月28日、木津川を美しくする会の総会に出席した。

8月1日、精華町人権教育研究会の学習会がむくのきセンターで開催され、教職員、保育所職員など多数の参加があった。

8月8日、教育委員の皆さんにも参加いただき、中学校給食の試食会を実施した。なお、8月22日にも同内容で町議会議員、町長・副町長、町幹部職員等向けにも実施している。

8月8日、精華町少年少女合唱団の合宿を宇治市のアクトパルで実施している。その3日後の8月11日に京都こども合唱祭が京都コンサートホールで行われ、同合唱団が出演した。

8月18日、京都府教育委員会と市町村教育長の懇談会が山城教育局で行われた。同懇談会は局管内別で行われており、山城は管内の市町村が多いので2回に分け、山城南部は、例年、精華町・木津川市・相楽東部広域連合・宇治田原町・井手町の5市町（広域連合）の教育長が参加して、府の教育長、幹部職員数名との懇談を行っている。懇談会では不登校対策等についての説明があり、それについて検討した。

8月21日と22日、京都府町村教育長会の研修会がけいはんなプラザを会場に実施された。京都府教育委員会の指導部長からの講義があり、その後、国立国会図書館関西館の視察を行った。翌日の午前中には情報交換、協議を行った。

8月25日、相楽地方の管理職研修会を、本年度は教頭を対象に開催した。今回は、奈良国立博物館の彫刻担当の学芸員からの講義を受けた後、委員の皆さんにも観覧いただいた展覧会「聖地 南山城」を鑑賞した。

8月29日には、9月1日からスタートする中学校のプレ給食として、3中学校に配送して実際に子どもたちが食べて、円滑に運営できるかのテストを行った。大きな問題はなく順調に実施できたと考えている。

(4) 議決事項

議案第28号 令和5年度精華町議会定例会9月会議提出議案に係る意見聴取について（令和5年度精華町一般会計補正予算（第4号））

教育部長 【提案説明】

教育に関する補正予算額として歳出で846万5,000円の増額補正となっている。

事務局一般事務経費として745万9,000円、そして中学校文化部活動の地域移行に向けた実証事業として100万6,000円を計上している。

まず事務局一般事務経費だが、事業名からは補正に係る事業内容が分かりにくいことから、補足として括弧書きで「別室登校者学習用ブース整備」と記載している。

今年度新たに創設された京都府の子どもの教育のための総合交付金を活用して、不登校児童生徒に対する支援の一環として別室登校者の学習用ブースの整備を行うものである。

具体的には、パーテーションやオンライン学習用機材などを購入して別室登校者が他の児童生徒の視線を気にせずに学習できるブースを整備し、その対応を専門とする指導員を配置する。

また、併せて、既に当初予算に計上して実施している、昨年度まで2名であったICT支援員の1名増についても、当該ブースの整備等を円滑に行うためにはICT技術のさらなる活用が不可欠であり、また、交付金の制度上も可能であることから、本交付金の充当を行うこととする。本交付金の補助率は2分の1で、今回補正額の745万9,000円と既定予算計上済みの116万2,000円の合計額で862万1,000円となり、その2分の1となる431万円が交付金の額となる。

続いて、中学校文化部活動の地域移行に向けた実証事業だが、京都府地域文化部活動推進事業委託金充当事業として文化庁が実施する「部活動の地域移行に向けた実証事業」の委託金を京都府からの再委託という形で受け入れするものであ

る。この委託金を活用して、今後の土日・祝日の中学校部活動の地域移行を見据えて、部活動に代わる吹奏楽の機会の提供を試みる実証事業の実施を、民間の地域吹奏楽団に対して委託するもので、補正額100万6,000円全額が府支出金となっている。

また、この文化庁の実証事業と併せて、本予算書及び附属資料には記載がないが、地域吹奏楽団に委託する形でのプレイベントとして中学生、保護者等に対する体験説明会を実施する予定としている。このプレイベントにも京都府の子どもの教育のための総合交付金を充当することとしている。なお、当初予算措置の時点ではスポーツ部活動の地域移行を試行する予定であったが、文化部活動での試行に変更したため、受け入れ予定であった地域スポーツクラブ活動体制整備事業補助金の71万円を減額している。

歳入だが、子どもの教育のための総合交付金として、別室登校者学習用ブース整備に対する補助分として431万円、地域吹奏楽団に委託するプレイベントに対する補助分として35万5,000円の計466万5,000円を追加計上している。また、文化庁の実証事業については、京都府地域文化部活動推進事業委託金として事業費と同額の100万6,000円を追加計上している。

【委員からのご意見】

井上委員 不登校に対する別室登校者学習用ブースに配置する指導員はおよそ何人雇って各学校に配置するのか。また、どのような方をお願いするのか。

学校教育課長 学習指導ブースに配置する指導員は、予算上は4名の計上としている。ブースは8校全てに設置するので理想としては各校に1名ずつ配置するのが目標だが、事業の初年度でなかなか人材登用が難しい状況でもある中で、府の交付金を活用する関係上、あまり過大な予算を見積もることが難しいことから、当初は半数の4名を任用することを目指す。また、指導員は、理想としてはやはり教員免許を持つ方を任用できれ

ばという考えはあるが、人材不足で実際には難しいと予想されるため、免許の有無に関わらず児童生徒の必要なサポートが可能な方ということで、何とか人材登用していきたいと考えている。

高岡委員 学習用ブースは8校全てに設置するということが、およそ何名分のブースを設置する予定か。

学校教育課長 現状、各学校ごとの別室登校の状況は、およそ4、5名程度と聞いているので、基本的に5名分のブースは何とか確保する計画で予算計上している。

松下委員 いずれの取組も非常にありがたく、続けてほしいと思う。部活動の地域移行について、来年度は今年度とは異なる予算建てが必要になると思うが、現時点でどのような方向性を持っているのか。

例えば3校の中学生を一か所に集めると、楽器の搬送など様々な費用が発生することになり、楽器のチューニングが必要になるなど難しい面がある。個人で持つ楽器は自分で持って行けるが、大きい楽器は個人で持って行けないので、誰かに搬送してもらわないとなくなる。

総括指導主事 地域移行に関する今回の補正予算の内訳はほぼ講師謝礼となる。楽器の運搬に関しては今でも吹奏楽の合同練習の際などは、保護者や顧問が運搬する形でされているので、この取組については、学校の部活動とは切り離れた習い事という位置付けと捉えていただき、保護者に運搬も含めてお願いしていくことになると思う。

新司委員 不登校の児童生徒の学習用ブース整備は子どもたちにとっては大変ありがたいことで、もっと早くしてあげられたら良かったとすら思う。こういったブースができて利用することが難しい不登校の子どもたちもいると思うが、利用する子どもたちの人数はどのように想定しているのか。

また、そのブースを保護者が利用することもあるのか。

総括指導主事 令和4年度で別室登校しているのが町内で36名だった。どこにも相談に関わっていない状況の子どもについては、小

学校で2名程度、中学校で5名程度だったと認識している。保健室に登校し、そこから教室に上がるという形も多く、多様な子どもがいるので、各学校において別室の必要性は増していると考えている。

なお、今回整備するブースは子どもたちが個別に学習するためのものであり、保護者からの不登校に関する相談等については別途スクールカウンセラー等による対応を積極的に実施しているところである。

(採決 ー 全員挙手により原案どおり決定)

議案第29号 令和6年度以降に精華町立小学校において使用する教科用図書の採択について

教育部長 【提案説明】

令和6年度以降に精華町立小学校において使用する教科用図書として、教育委員会の採択を得るために提案するもの。

採択協議の進め方については川村教育長にお任せする。

川村教育長 今回、採択を予定している教科用図書は令和6年度から9年度までの4年間、山城教科用図書採択地区において使用するものである。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により、共同採択地区として設定されている山城地方の公立小中学校は同一の教科用図書を採択しなければならないことから、去る7月24日に山城教科用図書採択地区協議会が開催され、京都府教育委員会から示された採択基準と基本観点を基に協議が行われた。今回の採択にあたっては、各教科と特別の教科道徳についてそれぞれ3つの採択基準と7点の基本的観点が示されており、これらの京都府教育委員会の採択基準を踏まえて各教科別調査委員会において調査研究が行われた。

調査研究は、申請のあった全ての教科書について行われ、その結果が山城教科用図書採択地区協議会教科用図書調査報告書としてまとめられた。報告書に基づき代表調査委員から

教科ごとに報告を受け、採択地区協議会の委員20名の出席により協議が行われ、本町からは委員として私と松下教育長職務代理者が出席させていただいた。

協議にあたっては、先ほどの採択基準に加え、山城地域の課題を踏まえた4つの観点についても加味した。1点目としては、山城地区において学力向上は大きな課題の1つであり、特に児童生徒の思考力、判断力、表現力の育成を図るための配慮などがあるかという学力向上の視点。2点目としては、教育を取り巻く多様な価値観がある中、公教育として多種多様な意見がより反映されているかどうか、公平性が担保されているかという視点。3点目としては、管内教員の若年化に伴い授業の質を担保する上で、若手教員でも授業で使いやすいかどうかという視点。4点目としては、児童生徒が親しみやすく、使いやすく、そして主体的、対話的に学習に取り組むことができるかどうかという視点。これら4点とともに、法定展示や各巡回展示の中でいただいた多くの意見も参考に協議が行われた。

協議の結果については、提案説明のとおりである。

【国語】光村図書出版

総括指導主事 系統性を確認することができるように学習内容が整理して示されている。国語の学習のめあてを記入する欄があることや、主体的、対話的に学習できるような工夫がされている。単元構成について学習の流れが整理されていて理解しやすい点、活動ごとの視点が細かく示されている点が大きな特徴として挙げられる。考え方を整理したり広げたりする時に必要な思考ツールが記載され、思考力、判断力、表現力の育成につながるよう配慮されている。

松下委員 国語に関しては、まず3社の教科書作成の意図を見させてもらった。残念ながら光村図書、教育出版、東京書籍の3社とも、現学習指導要領で述べている言葉と若干異なる言葉を使っていることが判明したことは、研究するうえで困

った点であった。そのため、総括から報告があったような事項を併せて見させてもらった。

例えば、教科書を開けた時に、どのように学習を進めていけば良いかを、東京書籍と光村図書で述べてあったが、光村図書のほうがページを開けたらすぐ分かるように、印刷方法の配慮があったので非常に使いやすいという印象があった。そして、漢字をどのように教えているのかという視点で見たところ、光村図書は初出箇所のおすぐ後に新出漢字として紹介されており、しかも筆順が分かるように記されていた。これならば先生も指導しやすいし、子どもたちも学びやすいと感じた。また、6年生の教科書に谷川俊太郎氏の詩が出ているが、光村図書が掲載している「生きる」という詩は、小学校の全課程を終えて中学校へ進学するにあたって非常にふさわしい詩であると思う。他社も同じように谷川氏の詩が掲載されているが、非常に難しい詩が載っており、それらと比べると光村図書が子どもたちにとっては分かりやすいと感じた。

もう一つ、人間が他の生物と何が違うのかという、子どもたちの興味関心が湧いたり、発達の段階で自分たちが成長していく過程を踏まえて述べておられることがよく分かったので、私も、現在採択されている光村図書が良いと思った。

【書写】東京書籍

総括指導主事 大きな特徴が2点ある。1点目は、目次に6年間の学習内容が示されていて、そこに各単元の位置づけがされていて分かりやすい。2点目は、単元ごとの書写の鍵というところに大事なポイントがまとめられており、巻末には1年生から当該学年まで学習した書写の鍵が全てまとめられている。全体のレイアウトは大きくて見やすく、全体として色合いも落ち着いていてシンプルというのが特徴である。

高岡委員 光村図書と教育出版と東京書籍のいずれもイラストや写真などを使い、親しみやすい教科書になっている印象を受けた。教育出版に関しては写真とイラストでの姿勢の見方が

少し違うかなという印象はあったが、私個人の見解かとも思う。光村図書に関しては、他と比較してイラストが大きい気がして、イラスト重視のところは幾つか見られたのが少し気になった。東京書籍に関しては、始筆、送筆、終筆という声をかけながら、トン・スー・トンという感じで、書き順に関しても適切な長さの動画を使っていて、見やすいという印象を受けた。この3つを比べた感じでは、私も東京書籍が一番見やすいのではないかという印象を受けた。

【社会】日本文教出版

総括指導主事 近畿地方の市町を多く取り上げている。1時間の学習課題が明示されており、視覚的にも意識しやすく構成されている。キーワードをルビつきで明示し、太字表記をして注目しやすくなっている。また、学習のポイントを整理しやすくしている。既習内容を基に解決方法を考えたり、他者の考えを振り返って話し合ったりするなど、社会科の特質を生かした主体的、対話的で深い学びを行う場面を積極的に取り入れている。

川村教育長 東京書籍、教育出版、文教出版の3社から教科書が出ており、その3社の中からの採択となる。

まず、外見の装丁だが、近年、教科書が重くなっているのが気になるところだが、東京書籍は5年生、6年生がそれぞれ2分冊になっており、装丁ということで外見上の問題ではあるが、この点は東京書籍のものが好ましいと思った。

次に、内容について数点申し上げる。山城教科用図書採択地区協議会の調査報告書では、採択基準にある学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていることに関しては、3社ともそれぞれに創意工夫がされているとの評価であった。内容や構成が学習指導を進める上で適切であることとの採択基準があり、その中に思考力、判断力、表現力の育成を図るための配慮という観点がある。その観点に関して同報告書には、日本文教出版の教科書については、学習問題を追求、解決する手だてとなる見方、考え方やまとめ方や読み方などを

示した、学び方、調べ方などのコーナーを設定しており、観察や見学、表現活動などの質を高める手だてとなっている。また、タブレットを活用したまとめ方が提示されていると記述されている。さらに、児童が主体的、対話的に学習に取り組むことができる配慮という観点もあるが、そうした学びを深めるためのサポートとして二次元コードを示して写真や動画、ワークシート、関連しているウェブサイト等にアクセスできるようになっている。

私の見解だが、社会科は従来から知識を詰め込む暗記型学習に陥りやすい教科であると思っており、現学習指導要領の目指すところに沿って思考力、判断力、表現力等の育成、そして主体的、対話的に学習に取り組む姿勢というものをより意識的に強くサポートする教科書が好ましいと考える。その点で各社それぞれの工夫はあるものの、日本文教出版の教科書が一步抜きん出ているように思うので、これを採択してはどうかと考える。

なお、本町での教科書の巡回展示での意見が寄せられているが、社会科に関しては8件寄せられており、日本文教出版の教科書の内容について、その問題を指摘するようなものはなかった。

【地図】 帝国書院

総括指導主事 日本伝統、文化、歴史に関して理解を深められるよう工夫しており、日本の領土の範囲、都道府県の名称等、位置が捉えやすくなっている。また、地図上の使い方も丁寧に解説している。地理的条件や気候などの関係から、災害の要因や防災について考察できるように、日本列島の自然災害マップとともに、災害への備えも記載し、防災の工夫について考えやすくしている。SDGsの特設ページを設けていることや、レイアウトの統一、文字やフォントの大きさ、文節、改行、色覚特性に配慮した工夫がある。

川村教育長 帝国書院の地図で、前回もこれが採択されているわけだが、

今回、前回よりも12ページ増えていた。どこが増えているかを見てみると、まず最初のほうに地図の使い方や成り立ちというコーナーがあり、ここでまず2ページ増えている。そのコーナーでは地図の中の記号と色に注目しようという内容があり、色に注目しようというのはどういうことかと考えてみたところ、例えば近畿地方中央部の地図で、山について見れば、近畿の山として金剛山や、紀伊山地の八経ヶ岳や大台ヶ原などの高い山があるわけだが、もう1社の地図よりもはるかにはっきりすぐ分かる状況であった。これが色に注目ということかと思われた。

さらに見ると、山のひだや谷や尾根の形状が色でよく分かり、こういう点を帝国書院は非常に丁寧に追求しているのだと思う。どこに何があるかだけではなくて、色で地形がしっかり認識できるということは、やはり地図としては大切なことだと思った。また、地形が把握しやすいと述べたが、地図からの情報としては、方位・面積・距離・隣接関係などとともに、山脈や河川といった地形が歴史や気候や文化、産業などの社会全体の在り方に影響しているわけであるので、その地形の把握がしやすいことは大事だと思っている。

また、大阪府中央部の地図で2ページ、江戸時代の本州の中央部の地図で2ページぐらい増えている。江戸時代の本州の地図というのは、江戸からの五街道と宿場が表示されていて、歴史の学習で使うことが想定されている。また、江戸時代後期の江戸の図もあり、江戸時代の町の様子などが説明されている。

このような内容でページが増えているのだが、地図を通して歴史の理解を深めるといった学習方法を体験して身につけることは重要だと思う。また、SDGsの説明として2ページ、日本の世界遺産に関するコーナーで1ページが新たに増えていた。更に細かく見ると、例えばアメリカ合衆国の州が表記された地図があるが、前回なかった大リーグのチームの本拠地が今回書いてあり、エンジェルスとマリナーズの

本拠地がどこにあるかすぐに分かるというように、今知りたい内容が補強されていた。

このように帝国書院の地図帳は、長年の地図づくりのノウハウが詰まっており、さらに進化を遂げていて、好ましいと思った。

【算数】新興出版社啓林館

総括指導主事 個別最適な学びという視点で、デジタルコンテンツが一番豊富で、児童の学び直しや家庭学習で活用できるようになっている。基礎基本の定着という部分で補充問題、調整問題が用意されており、習熟度に応じて取り組むようになっている。また、紙面の見やすさ、学習の進め方が大変明確で、児童が自ら問いの見通しを立て主体的、協働的により良い解決に向かうことができるよう展開されている。

井上委員 京都府やこの採択地区の観点にはないのだが、例えば他県では数学的な活動を充実させるための工夫という観点を設けている。前々回の学習指導要領だと思うが数学的活動という項目が入ってきて、今の指導の中で一番重視する、そういった観点があるわけだが、その中では啓林館が一番使いやすいくち考える。思考の過程でそういった数学的な活動を入れる。また、数学というのは日常の生活場面からはなかなか離れていることもあるので、そうした問題を単元の最初に持ってくるという工夫をされていて、確かに使いやすいと思う。中学校では、数学などは啓林館から別の教科書会社に変更になっているケースも多いのだが、小学校の算数では啓林館が強い。小学校の算数はずっと啓林館が採択されているので、1社に偏るのもあまり良くないのではとも思うのだが、今回研究してみて、やはり啓林館が確かに一番使いやすいという印象を持った。

【理科】新興出版社啓林館

総括指導主事 学びが暮らしにリンクする、学びが未来につながる、問題

解決、ICT活用をコンセプトに挙げられており、全体的に問題の設定、単元を通した問いが生活と結びつけられ考えられている。情報活用能力や問題解決の力を育むCBT問題を新設され、二次元コードでの補充問題にも取り組むことができるようになっている。全単元末にある暮らしとリンクでは、理科の有用性を感じさせたり、働く人のインタビューを載せてキャリア教育にもつなげたりする工夫がされている。

松下委員 5社から教科書が出ている。その中で、選定された啓林館は実はサイズが一番小さく、AB版、21センチ×25センチ程度である。昨今、教科書は本当に厚く大きくなっているが、5社見る中で明らかにコンパクトなのに、字が小さいということもなく、本当に見やすい字で書いてあった。逆に、大きい版のところは字が大きくて見にくいと感じた。最近では教科書自体が写真や絵が大き過ぎて、視覚的には逆に見にくいような雰囲気さえ感じることもあるが、字の大きさ、フォント、配置、これが5社の中でも啓林館が一番適当で見やすい教科書であったという実感だった。

それから、今、気になったのが各会社の作成意図だが、5社ある中で啓林館だけだと思うが、文言に全く間違いがなかった。他社には、検定は通っているので問題ないということになるのだろうが、文部科学省ではコンピュータと切るのだが、コンピューターと伸ばす字で表記されていた発行者があった。文言について気になるのは以上である。

次に中身だが、子どもの主体、対話、深い学びについて、一般に問題があって、調べて、まとめて、実験をして、振り返ってという一連の流れがあるが、啓林館はもっと知りたいとか、さらにそれを掘り下げてどうかというところまで触れ、しっかりと理科的に物事を考える力をつけるような教科書の流れになっていたのは良いと思った。総括指導主事からもあったが、生活と結びついた内容が多くあった。例えば、火を燃やすという内容があるのだが、2社だけがランタンを使っていた。ランタンというのは下のほうにも穴が開いていて、

なぜそれが連続して燃えるのかということからヒントを得て実験に入っていくという、生活に非常に結びつく形になっており、これも良いなと思う。

また、理科は算数との関連が非常に深い教科でもあるので、その視点で見ると非常に分かりやすくグラムの問題、割合の問題を細かく整理されていた。しかも、それが何年生で扱う内容かが記載されていたので、指導の面でも、子どもたちが学ぶ面でも、算数と理科との関連を深めて両方の教科が学べると感じた。

【生活】新興出版社啓林館

総括指導主事 活動の連続性や広がり、深まりを意識することができ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえたスタートブックなどを載せており、児童のみならず、保護者にとっても安心につながるよう工夫がされている。資料等の工夫や二次元コードを掲載し、單元ごとに分かりやすく配列しており、児童が自ら調べやすいよう工夫されている。児童がボタン1つで動画を見たり、音を聞いたり、詳しく見たり、附箋を貼ったりできるように工夫がされている。

新 司 委 員 全体としての特徴、創意工夫だが、写真がとてもダイナミックである。そして、子どもたちの表情がとても良い。子どもたちが学習する時に見て、何か楽しそうというのが、この教科書をもった時にすぐ浮かんでくるのではないかなと思う。

6社あったが、啓林館の良さについて述べたいと思う。子どもの写真の表情が楽しそうで、学習への意欲が高まるような構成になっている。内容と構成だが、学習活動が單元ごとに3段階に分かれていて、色分けがされている。導入、活動、振り返り、わくわく、いきいき、ぐんぐんという言葉で構成されて、それぞれの単元でパターン化されている。児童にとっては活動の流れが分かりやすく、よく理解でき、学びやすくなるのではないかなと思う。このわくわく、いきいき、

ぐんぐんは、生活科の学びのプロセスに合致している。わくわくは、思いや願いを持つ、いきいきは活動や体験をする、感じる、考える。ぐんぐんは、表現する、振り返るということである。

思考力、判断力、表現力等の育成を図るための配慮としては、子どもたちが感動したことや発見したことなど、気づきの言葉が吹き出しの形で示されていて、その数も多い。例えば、朝顔を育てるという単元だが、「葉には細かい毛があるよ」、「前より大きくなってきたよ」、「今日は7個咲いたよ」、「このつぼみは明日には咲きそう」などの子どもの気づきは思考力を深めていくヒントになると思う。さらに、その気づきや思いや願いが「めくり言葉」として書かれているのだが、その「めくり言葉」を参考にしてさらに次の活動に途切れずにつながっていく、次の活動が膨らんだり深まったりしていくのではないかと思う。

また、学習図鑑、びっくり図鑑ライブというものは、この生活科の教科書の中に図鑑がたくさんあって、多様で豊富な資料の多さには感動した。ドングリの種類が何種類あるかや、秋の木の葉の落ち葉の色が、G a k k e nとコラボした図面ということで、啓林館が自信を持った構成になっているようだが、図鑑としても価値があるものではないかと思う。

また、二次元コードが充実しており、秋の図鑑のところの秋の音の二次元コードからは、コオロギやキリギリス、マツムシ、クツワムシなどの虫の音が流れてくるので、これは感動的であった。また、デジタル探検ブックでは、植物、昆虫、野菜、料理、町の様子、町の中で聞こえる音、SDGs、命を守るといった内容で、児童自身が必要に応じて資料を活用できるようになっている。

また、幼児教育とのつながりがどの教科書よりも多いように思う。スタートカリキュラムに関するスタートブックというものが単元の1つとして示されている。他の教科書は幼児教育との生活科のつながりで大事にしてあり、ページは少

ないものの存在はするのだが、啓林館は単元として設定されている。幼児期の学びや育ちを小学校の学習に丁寧につなぎ、入学後、安心して学校生活を始められるのではないかと思う。

二次元コードでは、幼児期の遊びや活動の振り返りができる写真が多く掲載されている。そして、入学前はどんなことをしていたか、子どもたちにとってはその幼児期の振り返りをすることで、安心感をもって生活科の学習に入れるのではないかと思う。幼児期の遊びを通した総合的な学び成果を生かして、小学校の学習につなげていてもらいたいと思っている。

また、幼児期に育てたい10の姿を保護者向けに解説が設けられているのは、とても良いことだと思う。また、教科書の編集には幼児教育関係者が多く関わっておられる。保育の現場におられる方もとても多い。生活科と幼児教育の連携を重視していく教科書であることがうかがえる。

【音楽】教育芸術社

総括指導主事 何を学ぶか、何ができるようになるかを明確に示し、そのための学習活動を提示し、学習指導要領が示す目標が達成できるように導いていて、6年間を見通した系統的な学びができるように工夫されている。子どもたちの思考例が書かれているページが多く、表現や思考のイメージが持ちやすくなっている。表記、表現の工夫としては、全体で共通してカラーで使い分けてあり、ユニバーサルデザイン、文字の読みやすさ、見やすさへの配慮、全ての題材に二次元コードがついていて、曲ごとに楽器の使い方や曲の特徴などもとても分かりやすくなっている。

新 司 委 員 巻頭には、年間の学習の見通しとなる学習マップが示されている。これを見ることによって、この1年間、自分はどのようなことを学習するのかという見通しが子どもたちに持てるのではないかと思う。また、学習したことをいつでも確認できるように、巻末に振り返りのページがどの学年に

も入っている。3年生以上の教科書で、表紙の裏の口絵には子どもたちが演奏する際に大切なことを考えたり、音楽そのものについての考えを広げたり、深めたりするきっかけになるよう、音楽を様々な視野から捉える内容を掲載している。例えば、リコーダー奏者やソプラノ歌手から、音楽と社会をつなぐテクノロジーや、音楽への探究心など、それぞれのテーマで口絵のところに有意義なメッセージが書かれている。また、そのことによって音楽を幅広く捉えて学習できるのではないかと思う。また、教科書には4人の子どもとナビゲーターのキャラクターが登場して、学習内容に応じてキャラクターの表情やしぐさを変えたり、活動している様子を表したりしている。それによって児童の興味関心を引き出されるのではないかと思う。表情やしぐさが変わっている姿から、活動の内容をイメージしやすく、分かりやすいので、楽しく学べるのではないかと思う。

また、全題材において子どもたちが何を学ぶのか、何ができるようになるのか、どのように学ぶのかという学習内容を意識できるようになっている。3つの柱、資質の能力に対応していて、考える、見つける、歌う、演奏するということがあって、考えるは思考力、判断力、表現力、そして見つけるは知識、歌う、演奏するは技能の3つの資質、能力を育てるための項目である。例えば、「ひらいたひらいた、なんのはながひらいた」というわらべうたがあって、子どもたちが集団遊びをするが、その歌で何を考えるのか、蓮の花はどんな様子なのか、蓮の花のように開いたりつぼんだりして遊みましょうということが、考えるという項目に書かれている。また、歌うという時には、「蓮の花の様子を思い浮かべて友達と声を合わせたり、動きを合わせたりして歌いましょう」という言葉が書かれている。また、見つけるというところでは、「音楽に合わせて手を打ったり歩いたりしましょう」と書いてあり、ほかにもリズムを見つけよう、歌詞から歌の景色を見つけようという項目で、子どもたちが学ぶこと、

学習内容を意識した仕様になっている。

題材の最初のページにはめあてが示されて、また最後のページには学習内容を振り返る問いかけがあって、何を学ぶのか、何ができるようになったのかなど、自分自身で確認できるようにになっている。

ほとんどのページに二次元コードが設置され、教材の音源が聴けたり、演奏動画を見たり、作品をつくったりすることができる。さらに、学びたい子どもにとってのサポートもできるようにになっている。

世界の音楽や日本の音楽に親しむという題材では、昔から歌い継がれてきた民謡や童謡、また郷土の音楽に親しみを持って伝承していくことや、文化、芸能を大切にする気持ちが育まれていくのではないかと思われる。

【図画工作】 日本文教出版

総括指導主事 単元の導入時の言葉書きが分かりやすく、児童の創作意欲が湧き立つものとなっている。多くの写真や活動のヒントとなる内容が示されていたり、また二次元コードを用いてタブレット端末で活動の手順や技法を動画で確認できるように工夫されている。様々な作品がイメージしやすく掲載されており、表現の幅広さを示し、創造性を培うことができる工夫がされている。

新 司 委 員 日本文教出版が優れていると感じた点を述べたいと思う。目次の次のページに、教科書の使い方というコーナーが提示されている。1年生から6年生までそれぞれの学年によってそれぞれ使い方が違うのは当然だが、学習のめあてでは育てたい力を明確に分かりやすく示している。児童は活動の前にそれを読むことによって、何をどのように学ぶのが良く分かり、主体的に学べる工夫がされていると思う。材料、用具の使い方についてや、写真や作品について、鑑賞のヒントや片づけについて、他の教科との関連、安全への配慮の仕方などが教科書の使い方として明記されていて、

学びが深められるような工夫が見られた。また、振り返りについては、観点が絞られているので、何について振り返ったら良いのかがはっきりしている。書いたり話し合ったりする際に、身についた力を確認でき、次の学習につなげていけるよう工夫がされている。例えば、新しい形ができた時、どんな気持ちになったか、いろいろな材料で楽器を作った活動では、作ったものをみんなで鳴らすとどんな気持ちになったかなど、そういうことの振り返りの観点である。また、各学年共、巻末には材料と用具の引出しというページがあって、書く、切る、貼る、彫る、移すなど、学年に応じた用具や材料などの知識や安全な使い方が示されている。多様な技法を使った表現活動ができるようになってきている。いろいろな材料を使って製作したり活動したりする子どもの写真や作品、またそれに対するコメントが多く掲載されている。材料や作品の提示は、子どもたちにとっては活動に見通しが持ちやすく、紙面の中の子どもの姿が学習する子どもたちの好奇心を引き出すものとなっていると思う。それらは表現する時の発想や構想のヒントになっているのではないかと思われる。日本の伝統的な作品や身近な美術作品、また外国の美術作品を多く掲載し、鑑賞の大切さを促し、造形的な視点を養うことにつながってくると考えられる。また、全国の様々な造形活動や美術館、伝統工芸、美術作品などを紹介して地域とのつながりも示されているのが良いと思う。また、幼児教育の場での造形活動が図画工作科の学びにつながっていることが示されている。低学年では生活科との関連のある題材が多く掲載されていることも特徴だと思う。

【家庭】開隆堂出版

総括指導主事 多様性を意識した写真やイラストが掲載され、教材の配色や柄を見てもLGBTに配慮し、固定観念を持たないように工夫されている。動画が工程別に細かく紹介されており、ユ

ニバーサルデザインが施されている。見てまねることができるように手元は必ず写真を使っており、掲載の仕方も大変見やすいものとなっている。

高岡委員 開隆堂と東京書籍のどちらも、イラスト、写真がたくさん使われていて、子どもが授業以外でも興味を持てるような仕様になっていたこと、また、テーマごとに色分けがされていて目的のページを開きやすく、学ばなければいけない重点を分かりやすくまとめてあって、最終的に身につけているかをチェックするコーナーがあったことについては良かったと思う。どちらかというところ、開隆堂は動画などもたくさん使われていて、東京書籍は縫製に関するページを例にすると、図のみで解説する方法が従来の教え方だったのだが、開隆堂に関しては各縫い方を動画で公開しており、分からなかったら繰り返しで見られるところが良かったと思う。食事のページでゆで卵の作り方が取り上げられていたのだが、開隆堂は動画を活用してゆで卵の説明があったのだが、本と同じ流れになっているので確認しやすく、印象が良かった。東京書籍は、持続可能な社会の項目においては2ページ見開きでの説明があった。文章的には分かりやすい説明ではあるが長文で、子どもたちには開隆堂の説明のほうがイラストが用いてあり見やすかったのではないかと思う。結果的には開隆堂が良いのではという感想を持った。

【保健】東京書籍

総括指導主事 課題提起、一人で考える、他者と意見を交流する、自分の生活に生かすためには、の4つのステップで構成されていて、全ての単元が同じ構成になっていたのも、子どもたちがイメージしながら毎時間、課題を基にして考えを出して話し合っ
てまとめるというように、協働的に学習に取り組むことができるようになっている。二次元コードのコンテンツについては、各ページにそれぞれ必要な資料がまとめられていて充実

している部分と、友達や自分の考えを記述する欄があるなど、記入スペースも工夫されている。

井上委員 5社の中では、総括からも説明があったように、東京書籍とGakkenが使いやすさ、見やすさ、そして内容の面で秀でている印象。その中でも、京都府の観点の中でさらに特に知識を活用する部分や、見方、考え方についてどのように展開していくかといった点では、私はGakkenが優れているのではないかと思ったが、私個人の感想だけではいけないので、他府県の教科書採択の状況をいろいろ調べてみた。

その結果、東京書籍とGakkenが一つ抜けていて、どちらかが採択されているという状況なので、採択地区協議会が選定された東京書籍が良いと思う。

【英語】光村図書出版

総括指導主事 思考力、判断力、表現力の育成を図るための配慮について、友達同士で尋ね合うような学習活動が示されている他、学習活動の示し方が指導者の選択できる自由度が高く、振り返りについては具体的で、分かりやすい示し方になっている。二次元コードが単元、または本時ごとに設定されていて、特に内容が豊富である。サイズがAB版と一回り小さく、机上の整理がしやすい教科書のデザインになっている。

川村教育長 英語は6社から出版されている。小学校では令和2年度から新しい学習指導要領の下で5年生、6年生において教科として指導することになり、教科書が用いられることになったわけだが、4年前に採択されたのは東京書籍のNEW HORIZONである。今回、山城採択地区協議会では、これを変更して光村図書のHere We Go!を選定した。変更するからにはしっかりとどこが良いかを見ておかなければならないと思ったわけだが、実は4年前に、小学校の英語教科書として東京書籍を採択した翌年、つまり3年前の中学校の教科書採択において、それまで28年間使用してきた東京

書籍から光村図書に採択替えするという転換があった。その当時、採択地区協議会での調査員の説明では、東京書籍の英語の教科書、NEW HORIZONをどう評価するかは調査員同士、かなり検討した結果が報告された。NEW HORIZONの評価できる点は、長年使ってきたゆえに使いやすいということと、また、よく作り込んでいるという点だったが、逆に、内容が盛りだくさんで消化しきれぬのかどうか、また、消化しきれないとなると教科書の制作者がこれは大事だと盛り込んだものが、現場の先生方の判断でやむなく省いてしまうようなことになっていないか、そんな懸念が報告された。また、小学校では前年にNEW HORIZONが選定されていたので、中学校もNEW HORIZONにすべきかという議論もあったと聞いている。しかし、何社か比較検討する中で光村図書のHere We Go!が単元の展開で使いやすいので推薦できるという報告があり、その他にも、Here We Go!が良いとする理由が幾つか挙げられた。

今回、小学校の教科書を採択するにあたって、中学校と同じ出版社にしなければならないということはないのだが、中学校の採択の時に言われた点、つまりNEW HORIZONは内容が盛りだくさんで消化しきれぬのかという懸念、これは小学校のNEW HORIZONについても検討する必要があると思った。

そういう目で見ると、東京書籍は、例えばボールという単語があって、それと同じ発音の単語を4つの中から選びなさいといった課題で、二次元コードで動画が出てくるのだが、ピック、ベッド、ハム、ポットなどが発音されて、初めの音がボールと同じ単語を選びなさい、要するに、発音とスペリングをテスト形式で問う形になっている。一方、光村図書のHere We Go!では、同じような発音とスペリングの学びのところは音楽が流れてアルファベット、例えばPならPの音を含む単語がずっと流れてきて、正しさを問うので

はなく、ただ発音していくものとなっている。

そんなことを比較する中で、さらにこのNEW HORIZONは書き込むところが非常に多く、やや語弊があるかもしれないが、私には、昔の受験英語の教え込み型、あるいは覚え込み型の教科書であるという印象を受けた。

4年前は東京書籍のNEW HORIZONが良いとこの会議で言っていたのだが、なぜ転換するかということは今、いろいろと反省を込めて説明している。

当時、NEW HORIZONのマイピクチャーディクショナリーという別冊があって、600語ほど入っていて、これを全部頭に入れることができればどんどん英語ができるようになるだろうと思ったが、改めて考えるとこれがすごい分量で、果たしてこんなものを完全に覚えることができるのかということが、反省点としてある。

光村図書のHere We Go!についても内容について少し述べると、例えばお互いのことをよく知るために、誕生日などを尋ね合うことができるといったゴールが単元の初めに示され、その次に、まず「ホップ」があって、身の回りの物の言い方を知る、物の名前を英語で覚えていく。次の「ステップ」で、誕生日を尋ね合うということで、誕生日を尋ねる質問、応答を学ぶ。そして、「ステップ」の2として、さらに欲しいプレゼントを尋ね合う。最後に「ジャンプ」で、誕生日のカードをつくって、誕生日カレンダーでまとめるといった形で、授業のたびにスモールステップで進んで行く形をとっている。採択地区協議会の調査員は、この学びのプロセスが大変分かりやすいと評価していて、またこの教科書の中には年3回の単元のまとめというページがあり、調査員の報告では、これは学習度合いを定期的に確かめることができるという評価がされている。また、豊富な二次元コードのコンテンツが示されており家庭学習で活用できるといったことが報告されていた。

最後に、この教科書は先ほど松下委員から別の教科書に

ついて指摘があったが、少しサイズが小さくなっていて、教科書の重量が課題になる中で、これも1つの良い点と思った。

以上、光村図書のHere We Go!が望ましい点について幾つか紹介させていただいた。今回の機会に、中学校と同じように採択替えして良いのではないかと思う。

なお、本町での教科書展示会でのご意見の中で英語に関しては3件のご意見があり、NEW HORIZONは教科書の情報量が多くて大変そうという懸念をされている方がやはりおられて、また、小中の教科書会社は統一してほしいという声もあった。この2点を報告しておく。

【道徳】日本文教出版

総括指導主事 SDGs、情報モラル、そしていじめについて重点的に取り組めるように工夫されている。学んだことをどう生活に生かしていくかという点も盛り込まれている。また、UDフォントであることや、デジタルコンテンツが充実していることも評価できる。唯一、道徳ノートが最初からついていて記述に自由度があり、先生方が使用しやすい印象である。

松下委員 総括から報告があったように、私も同じ意見を持った。道徳という科目は社会の変化でどんどん変わっていくような分野でもあるし、現行の学習指導要領での小学校における大きな変更、追加点として、言葉が整理されたということと、そして、英語と道徳について教科化されたということがある。この間4年間ほどの社会の情勢を考えた時に、一番大きい出来事はもちろんロシアのウクライナ侵攻だが、日本においては少子高齢化の問題やグローバル化の問題、そして情報化の問題を抜きにしては考えられない。また、人権の問題である。例えばいじめの問題や情報リテラシーの問題などは他の教科でももちろん指導しなければいけないが、やはり道徳という教科の中でしっかり押さえていかなければならない状況を見た時に、本当に6社それぞれが、日本各地の場所に関連した道徳教材を出していたり、人権

をしっかりと扱っていたりして、特徴を出す工夫をされている。物事の考え方、積み上げて考えていくとか、魚の骨のように枝葉を分かれて考えていくとか、そういった様々なたとえで考える方法として思考ツールを示している教科書も何社かあった。

そのようにそれぞれ工夫しているという中で、何を重視して評価するかは大変迷ったのだが、今回、この日本文教出版の教科書を見ると、目次では、どの題材がどのような内容かを明記してある。これは、先生も指導しやすく、子どもも学びやすいので良いと思う。よって、私もこの日本文教出版の教科書が一番良いのではないかと思う。

また、有償で売っていたりする会社もある中で、日本文教出版は道徳ノートが無償でついている点は評価できると思う。

他社で気になったのが、最近の有名な人物の生き方を紹介する内容で、最新の情報を取り入れるためのものなのに、検定から採択されるまでの時間差で、既に情報が少し古くなってしまい、逆に足を引っ張っているところもあるのではとも思う。その辺りは今の検定制度の問題にはなるが、もう少し柔軟に対応できれば良いと思った。

以上のとおり、結論としては、日本文教出版の生きる力、道徳ノートを合わせたものが、採択に一番ふさわしいと考える。

【全体を通して】

川村教育長　　たくさんの教科種目の教科書について順次、報告があり、ご意見をいただいた。

それぞれ委員のご報告、ご意見に関しては、採択地区協議会が選定したものを本町としても採択すべしというご意見であったと理解している。

それでは、一括で採決を行う。

(採決 ー 全員挙手により原案どおり決定)

(5) 事務局からの諸報告

教育部長 1 教員の働き方改革についての緊急提言について

中央教育審議会特別部会が8月28日に教員の働き方改革についての緊急提言をまとめ、永岡文部科学大臣に提言書を提出した。

この緊急提言書では、学校に対して年間の授業時間数の国基準を上回る場合には改善を図ること、学校行事での無駄を省くこと、教員が終業から翌日の始業までの間に一定時間の休息を確保する勤務間インターバル制度の導入を検討すること、授業以外の業務を支えるスタッフを大幅に拡充すること、勤務時間をタイムカードによって管理すること、生成AIを活用して業務の効率化を図ることなどが求められているほか、教育委員会に対しては、保護者の過剰な要求に組織的に対応するための支援体制を構築することなどが求められている。

取り組むべき事項として、学校・教師が担う業務適正化の一層の推進、学校における働き方改革の実効性の向上等、持続可能な勤務環境整備等の支援の充実、以上3点が示されている。

1点目の業務の適正化と2点目の働き方改革の実効性の向上については、本町では学校行事の在り方の見直しや、教職員の時間外勤務の適正な把握と分析、現状分析に力を入れており、本教育委員会会議、校長会、安全衛生委員会などにおいて、勤務状況や時間外勤務の状況を報告し、また議論も重ねてきている。

また、3点目の持続可能な勤務環境整備等の支援の充実については、国や京都府教育委員会にもしっかりとした対応をお願いしていく部分である。

地域や保護者、町長部局との連携協働に加えて、学校現場が保護者対応に悩むような事案が生じた場合については、

教育委員会としても適切な支援に努めたいと考えている。

教 育 部 長 2 G I G A スクール構想タブレット端末の更新について

本町では、令和2年度末に児童生徒及び教職員のタブレット端末を導入し、G I G A スクール構想に基づいた学習活動を展開している。

しかし、これらのタブレット端末は一度購入すればそれで終わりというわけではなく、一定の期間が経過するとバッテリーが消耗し、また、老朽化に伴い処理速度が遅くなり、更には、学習ソフト等が求める端末の仕様が向上して、購入した端末では満たさなくなる可能性もある。

当初の導入時には、G I G A スクール構想と新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって長期の臨時休業を余儀なくされるなどの社会情勢の要請もあり、国の方針がタブレット端末を計画的に導入するという方針から、一括導入するという方針に変わって、経費についても大半が国費で賄われたという経緯がある。

本町教育委員会においてもタブレット端末の更新にかかる経費をどうするかという課題については頭を抱えているが、今回、タブレット端末の更新に要する経費を国が負担する方針を固めて、来年度予算案の概算要求に148億円を計上したという報道があった。報道ベースの範疇での情報ではあるが、1台当たり4万5,000円を上限に、更新対象台数の3分の2が国庫補助の対象となり、残りの3分の1は地方交付税で措置されるということで、今後3年から4年をかけて計画的に更新するという内容になっている。

ただし、この1台当たり4万5,000円というのは国が設定した上限である。確かに現在導入した機器については、1台4万5,000円の価格で購入しているが、この価格は国策で設定されたもので、現在は同様の機種が8万円から10万円になっている状況であるため、上限からは

み出す部分は地方自治体の負担になる。また、もう一方の地方交付税で措置される3分の1の所要額という部分については、理論的には地方交付税の基準財政需要額という地方自治体が必要とするお金の基準額に積み上げられるだけで、実際にその3分の1のお金が国から精華町に交付されるというわけではないので、課題のすべてが解決する訳ではない。しかし、大きな課題であったタブレット端末の更新に少し光が射したという思いであり、来年度の国の予算編成に向けての予算折衝はこれからではあるが、必要な予算が措置されることを願うばかりであり、関心を持って情報収集に努めたいと考えている。

総括指導主事 1 生徒指導報告について

(1) 小学校

7月の問題事象は1件。金銭が絡むSNSトラブルで、両家族で解決されたが、継続的に指導を行っているとのことである。

(2) 中学校

7月の問題事象はゼロ件。

総括指導主事 2 重災害事故報告について

7月の重災害事故の報告は4件。

1件目は、小学2年生の児童が鬼ごっこで頭部を打ったため保健室で処置をしたが、再来室してきた時に顔色が悪かったので救急車を呼んだという事象だった。

2件目は、学校管理下外で小学5年生の児童が自動車との接触で腕を骨折し、精密検査のため入院した事象であり、その他の怪我はなく現在は元気に登校している。

他2件については、中学生が熱中症の症状により大事を取って救急車を要請したもので、朝から水分を摂取しておらず昼に体調が悪くなったという事象と、夏休みに朝食をとらずに部活動をして体調が悪くなったという事象であっ

た。

4名共、その日のうちに自宅へ戻っている。

総括指導主事 3 問題事象の月別発生件数について

長期欠席について、小学校は12名、中学校は44名で、小中共に前月からは若干減少しているが、横ばいの状況である。全て家庭との連携は取れているが、夏休み明けということで、各学校には学期始めの丁寧な対応をしてもらっている。

総括指導主事 4 夏休み中の部活動の大会やコンクールの結果について

運動系部活動については相楽大会、山城大会、京都府大会、近畿大会、全国大会と勝ち上がると上位大会へ進むことができる。山城大会で精華西中学校が男子ソフトテニスの団体2位、女子バドミントンの団体2位、女子バレーボールの3位になり、男子ソフトテニスと京都府大会の準決勝で敗れたものの、決定戦に勝って近畿大会に進んだ。

また、山城大会の体操競技の女子個人総合で精華中学校の生徒が優勝している。

陸上競技では、京都府大会の4位、精華西中学校の2年生の男女が100mと800mで4位入賞している。

また、学校の部活動ではないが、空手で精華中学校から全国大会に出場している。

文化系部活動では、京都府の吹奏楽コンクールにおいて3中学校が金賞を受賞した。精華西中学校は関西大会に出場し、銀賞を取っている。

総括指導主事 5 全国学力・学習状況調査について

報道であったように、8月初めに結果の公表があったが、京都府は全教科で全国平均を上回っている。また、中学3年生の英語4技能のうち、話すことの正答率が全国的に低く12.4%であり、テストが高度過ぎるとの指摘や、作問が適切でなかったとの見方がされているため、生徒の英語力が低

下したとは判断できないという説明が文部科学省からあった。この英語の話すことは、全国500校の抽出による推計値として扱われ、本町の中学3年生の状況については分かっていない。

各教科の平均正答率から見る本町児童生徒の状況については次のようになる。

中学3年生は、国語の正答率については、全国平均が69.8%、府平均が71%であるのに対して本町は75%ということで上回っている。

数学については、全国平均の51%、府平均の52%に対して本町は58%で、こちらも上回っている。

英語については、全国平均の45.6%、府平均の47%に対して、本町は51%と上回っていた。

小学6年生については国語と算数だが、国語の正答率は全国平均が67%、府平均が70%であるのに対して、本町は68%で全国よりは上回っているが、府平均には到達していない。

算数については、全国平均の62.5%、府平均の65%に対して、本町は65%という数字になっていた。

府平均より低かったのは小学6年生の国語で、読むこと、書くことについて課題が見えてはいるが、小中学校共に、総合的に見ると学校間の格差はかなり大きい状況である。

児童生徒の質問紙の回答結果から顕著な内容を紹介する。

小学校では、授業以外の勉強時間、家庭学習の時間が30分以下、全くしないという回答が府や全国と比べて多かった。

そして、国語が好きという回答が府平均よりも高い数字になっており、算数と英語が好きという回答については府、全国よりも高い数値になっていた。

中学校では、家庭学習の時間数については2極化の状況であった。

勉強は好きかという質問に対しては、どの教科に関しても平均より低い状況ではあったが、逆に授業が分かるという回

答については、どの教科も平均以上であった。

部活動については、加入率、活動量が府や全国と比べて多い傾向が出ており、土曜、日曜に全く活動しない割合が府や全国と比べては低い状況であった。

総括指導主事 6 町立学校における今後の学校行事の実施について

今年度から小学校の運動会と中学校の体育大会の体育的行事については、来賓をお招きせず、新型コロナウイルス感染症の影響によりこの間精選してきた内容での実施とする。

また、卒業式と入学式の儀式的行事については、来賓をお招きして実施するという従前の形式に戻す。

学校教育課担当課長 1 中学校給食の提供開始について

(学校給食担当)

精華町立中学校での給食の開始日は、令和5年9月1日の金曜日、明日からの開始となる。

給食開始準備に係る経過を報告する。

まず、学校給食の配膳シミュレーションだが、7月18日に精華西中学校で、翌19日に精華中学校と精華南中学校で実施した。

内容は、実際の配送ルートを使って町内3つの中学校に、給食に使用する食缶と食器を配送し、配膳をして、配膳室の配膳員の動きを含めて、生徒と教職員の動線の確認や時間の計測を行った。また、アレルギー対応食についてセンターを出てから配膳ワゴンに積み込むまでの流れの確認作業を行った。

次に、調理リハーサル及び試食会だが、株式会社東洋食品が精華町の学校給食の献立を防災食育センターの厨房を使用して調理し、機械操作や調理手順及び味付けを習得し、必要な時間内での調理が可能かを確認した。

また、中学校現場においては教職員が実際に使用する食缶で配送された給食を試食した。22日には実際に配送されたアレルギー対応食である鶏卵除去食の受け渡し、試食を行

った。

一方、防災食育センターでは8月7日と22日の2日間の日程で、調理された給食の試食会を実施し、教育委員の皆さんにも参加いただいた。

次に、プレ給食だが、2学期の始業式翌日の8月29日に全ての中学校給食関係者が参加し、本格開始直前に実際の給食時間に合わせて配送し、生徒や教職員が配膳、喫食、下膳を行い、調理からの一連の流れを実施、体験した。また、調理現場や中学校において配膳シミュレーションの際に確認した課題点の改善など、再度の動線確認などを行った。

全ての中学校において配膳、喫食、下膳について順調に実施することができ、給食開始の準備が整ってきた。

次に、給食費についてだが、中学校の給食費としては、1食当たり320円でスタートすることとした。このうち、学校給食費補助金を1食当たり20円交付して、保護者負担は1食当たり300円とする。月額徴収は4,800円で、小学校と同様に毎年2月に精算調整を行う。

なお、保護者からの徴収は8月に開始することとして、7月に学校を通じて保護者に通知済みである。

次に、アレルギー対応や異物混入に係る対応についてだが、これらは、現在小学校給食で実施しているアレルギー及び異物混入の対応マニュアルを基本とし、若干の文言修正を加えて、学校給食委員会の中学校給食準備部会において各中学校に周知をした。また、中学校給食準備部会とは別に、アレルギー対応会議を開催し、町立小中学校に勤務する養護教諭、栄養教諭、学校教育課職員が参集し、中学校給食開始にあたり必要なアレルギー対応について協議し、給食欠食届の内容やルール、保護者面談の開始時期などについて協議した。

さらに、アレルギー対応については、その後、令和5年度の学校給食委員会総会において同委員会内にアレルギー対応部会を新設し、小中学校の関係職員が部会員となってアレルギー対応に係る内容について継続して協議を行うこととし

ている。

次に、給食開始に必要な届出等について、まず、営業許可届だが、防災食育センターにおいて学校給食の調理、配送を行う委託業者が令和5年7月に山城南保健所へ営業許可申請を行い、保健所からの立入調査を受けた後、7月21日付けで営業許可証の交付を受けている。

次に、学校給食開始届だが、給食の実施を行う精華町が保健所に提出する届出であり、既に届出を済ませている。

最後に、非常時の対応訓練について、非常時に防災食育センターにおいて応急給食を調理し、配送するための訓練であり、炊飯訓練と配送訓練を各1回実施した。

炊飯訓練としては、災害時に応急給食として提供する非常食を調理するため、防災食育センター内の厨房機器の使用方法的説明を受けて米飯を炊飯し、調理に必要な時間の計測や水加減などの調整を行った。参加対象者は、学校調理員、管理栄養士、学校教育課職員のほか、調理委託業者である株式会社東洋食品にも参加いただき実施した。

配送訓練としては、災害時に応急給食を配送するため、配送車の配送ルートの確認と避難所建物内への搬入経路の確認を目的とし、避難食を積載するコンテナについて配送車への積載、運搬について取扱いに係る注意事項を確認し、操作を習得する訓練を8月17日に実施した。参加対象者は、学校教育課、生涯学習課、危機管理室に加え、配送車及びコンテナの取扱いにかかる指導のため、株式会社東洋食品にも参加いただいた。

両訓練とも、終了後参加者から課題点や感想などを報告書として徴取している。

生涯学習課長 1 行事の実施予定等について

1点目、少年野球チームの全国大会優勝について。精華町内の少年野球チームである精華アトムズが、徳島県の阿南市で行われた「野球のまち阿南 第11回少年野球全国大会」

に出場して優勝した。全国から32チームが出場した大会だった。

2点目、第2回精華寿大学の開催について。9月6日に役場交流ホールにおいて、葉衛陽氏という中国琵琶のプロの演奏家を招いての中国琵琶の演奏会の鑑賞を行う。

3点目、第2回女性講座の開催について。9月20日に施設見学ということで、女性の会と精華町教育委員会の共催で実施する。農機具や作業機械、車両などをつくっているクボタの子会社であるクボタサンベジファームがされている大阪府河南町のかなん農場を見学する予定で、この農場は障害者の雇用支援施設となっており、30名ほどの参加があると聞いている。

4点目、せいか文化フェスティバル2023の開催について。文化協会が実施するもので、これまではむくのきセンターで開催されていたイベントだが、去年は20周年ということでけいはんなプラザを利用して開催されたところ、来場者や文化協会の出展者から好評だったということで、今年もけいはんなプラザを会場に実施される。まず、合同美術工芸展が9月27日から10月2日まで、けいはんなプラザのイベントホールを利用して各団体、サークルの合同展示会として開催される。また、舞台、ステージ部門の発表会が10月1日にけいはんなプラザのメインホールを利用して各サークルによる舞台発表が予定されている。

5点目、2023健康スポーツ交流フェスティバルの開催について。精華町スポーツ協会と精華町教育委員会の共催で実施する、以前行っていた町民運動会の後継イベントである。4年ぶりの開催となり、11月5日にむくのきセンターで開催される。詳細については現在スポーツ協会では準備、計画中であり、後日改めて教育委員の皆さんにもお知らせしたいと思っている。

6点目、第20回精華町子ども祭りの開催について。日程は既にお知らせしているが、せいか祭りと同日開催とし、

11月19日、けいはんなプラザのメインホールとイベントホールを利用して、ステージ発表と子どもたちへの体験コーナーを予定している。

(6) 後援関係

7月から8月にかけて受け付けた教育委員会後援事業の報告は、総数9件、学校教育課関係は1件、生涯学習課関係が8件で、内訳では社会教育課係の担当が7件、他1件が社会体育係の担当となっている。

(7) 9月の行事予定

先ほど学校教育課担当課長から報告した中学校給食が9月1日に開始となる。

また、東光小学校の修学旅行が9月15日と16日の日程で実施予定となっている。

9月23日に相楽地方中学校新人陸上競技大会、30日に相楽地方中学校秋季新人大会が実施される。

(8) 閉会

教育長が第8回教育委員会の閉会を宣言。